

## アリババと 40 人のとうぞく

昔々、ペルシャの国にアリババという男がいました。アリババは、毎日森で木を切って、お金をかせいでいました。ある日、森で仕事をしていると、大きな岩の向こうからとうぞくたちの声が聞こえてきました。

「開けゴマ！」

とうぞくがじゅもんをいうと、岩がパカッと開きました。中にはたくさんの金貨や宝石がかがやいているではありませんか！アリババは、そこからこっそり金貨を持ち帰り、裕福な生活を送るようになりました。

ところが、アリババのお兄さんのカシムが宝のひみつを知り、自分もほしいと言いました。アリババは仕方なくひみつを教えてあげましたが、カシムはじゅもんを忘れてしまい、どうくつから出られなくなりました。運悪くとうぞくに見つかり殺されてしまったのです。

アリババは悲しんで、カシムの体を持ち帰り、病気で死んだことにしました。しかし、とうぞくたちはすぐに見つけ出し、アリババを殺そうと油売りのふりをしてやってきました。

その時、アリババにはモルジアナというかしこいお付きの人がいました。モルジアナは、とうぞくたちが油を運んできたたるの中にかくれていることに気づき、熱湯をかけてやっつけてしまいました。

それからは、アリババはモルジアナにとっても感謝して、沢山の宝をみんなでわけあい幸せに暮らしました